慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	表紙 目次
Sub Title	
Author	
Publisher	慶應義塾経済学会
Publication year	1961
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.54, No.5 (1961. 5)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19610501--001

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

慶應義塾経済学会

三田學會雜誌

1961年　5月号

論　説

社会政策と生活構造……中鉢正美　1
第一次大戦後の農業恐慌の性格(上)……常盤政治　8
——一般的危機第一段階における農業恐慌の分析(一)——

資　料

経済活動の地理的側面に関する古典学派の所説……高橋潤二郎　35

研究ノート

信用形態にかんする覚え書……飯田裕康　50
——利子生み資本論の一論点——

学界展望

財政学研究の最近の一動向……大島通義　62

書　評

吉岡金市著『森近運平——大逆事件の最もいたましい犠牲者の思想と行動』……飯田鼎　70
『ラブルール』——一つの存在形態——……渡辺國廣　73
山田盛太郎著『日本農業生産力構造』……寺尾誠　79
アラム・ヴァルタニアン著『ラ・メトリーの人間機械論』…野地洋行　81

新刊紹介

54巻 5号

昭和25年10月24日 第三種郵便物認可
昭和26年2月13日 国鉄特別扱承認雑誌第一、九〇三号
昭和36年5月1日 発行（毎月1日発行）

三田学会雜誌

昭和三十六年四月号

定価 金九〇円（八送円料）

MITA GAKKAI ZASSHI

(Mita Journal of Economics)

Vol. 54, No. 4　April, 1961

CONTENTS

The Formation of Export Economies
——Burma's Rice Export Trade——..... *K. Yanaihara* 1
British Labour Movement and Marxism
in the 19th Century (2)..... *K. Iida* 19
Participation Rate of Worker Families
in Japan..... *I. Ozaki* 35
Measuring the Degree of Monopoly..... *Y. Hara* 60
The Logics of Contemporary Capitalistic
Society and Mixed Economy..... *N. Maruo* 70

Book Reviews

Sen Katayama, by E. Kishimoto, H. Watanabe
and H. Koyama
Sen Katayama——Modern thinker of Japan,
by M. Sumiya ..... *K. Iida* 81
Autour des biens d'émigrés, by P. Massé.....*K. Watanabe* 85
A History of Fascism in Japan, by S. Tanaka..... *A. Shirai* 89

Published for
KEIO-GIJUKU KEIZAI GAKKAI
(The Keio Economic Society)
Editorial communications to be sent to
the Editor, Keio-Gijuku Keizai Gakkai,
Keio University,
Mita, Minato-ku, Tokyo, Japan.
Price 90 yen

新刊紹介

J・ヴィダランク『第一帝政の末期における
ノルマンディの農業』……渡辺國廣 86

宇尾野　久著『西洋中世初期社会経済史研究』……寺尾　誠 86

J.J.スペングラー
W.R.アレン編『経済思想論文集』……白井　厚 88

花井益一著『価値と貨幣』……持丸悦朗 89

楊井克己編『世界経済論』……深海博明 90

社会政策と生活構造

中鉢正美

はじめに

経済学の一般理論は、資本の運動法則を中心として展開される。「古典経済学からはじまったブルジョア社会の内的構造の解明はマルクスにいたって本質的に完成した。商品の二要因で表示された労働の二重性と剰余価値論を基軸とするマルクスの資本制的再生産過程の把握は、ブルジョア社会の内的構造の解明という点では、いわば、ゆくところまでゆきつくしたのであり、マルクスの範疇よりもいっそう抽象的な範疇へくだって、ヨリいっそう本質的な把握をすることはできない」（出口勇蔵編「新訂経済学史」三七八頁）ということは、資本一般の理論としては正しいといわなければならない。しかしこの一般理論が、あるいは土地所有、賃労働、等々とのかかわりあいにおいて展開されてゆく過程においては、経済的価値の背後における使用価値の固有な諸性格との具体的な相互関連を解明する必要がおこってくる。ことに最近の急速な技術革新にともなう投資機会の累積的な増大と、その反面における産業別・企業別の生産力や所得の格差の動向を正確に把握するためには、その生産力の基礎をなす技術の諸問題を解明することが、はなはだ急務とされている。ことに社会政策の研究分野においては、生産過程における労働諸条件が、技術革新によっていかなる影響をうけるかが慎重に検討されなければならない。さらに労働条件の問題は、それによって稼得される賃金をはなれて論ずることはできず、これはまた労働者の生活欲望の動向とも密接に結びついている。筆者はかつて本誌所収の「社会政策と使用価値の循環」（五一巻・二号）において、社会総体としての使用価値のメタモルフォーゼと、経済循環の自己運動との、対応と乖離の関係をとり扱ったが、その結果はきわめて不満足なものであった。その後これを補完したいという意図をもちながらも、いまだ十分にその実現をみないうちに、このようなおぼえ書きのような形で再度発表せざるをえなくなったことは、まことに筆者の怠慢と深くその責を感ずる次第である。